

第1回 DRV（ドイツボート協会）国際ジュニアレガッタ

大門千紗（日田林工高校）の挑戦！！

平成27年5月7日
強化委員会・タレント発掘委員会

背景：日本ボート協会では2020東京オリンピックに向けて、悲願のメダル獲得のために選手強化に邁進しているところです。とりわけ、現在の高校生の才能ある選手の強化は、東京五輪に向けての最重要課題となっています。今回の事業は、すでに当協会が「メダルポテンシャルアスリート」として認定し、競技歴1年未満で国体ボート競技において優勝の実績のある「大門千紗選手(日田林工高校)」に、海外での「軽量級」且つ「ジュニア世代」のレースを経験させ、世界で戦い、世界と戦えるという感覚を養うための、次代を担う才能ある選手にとって極めて重要なレースと位置づけ、派遣することとなりました。

<現地レポート>

5月3日：10時15分 LH751 便にて関西空港を出発、ドイツ フランクフルト空港へ。

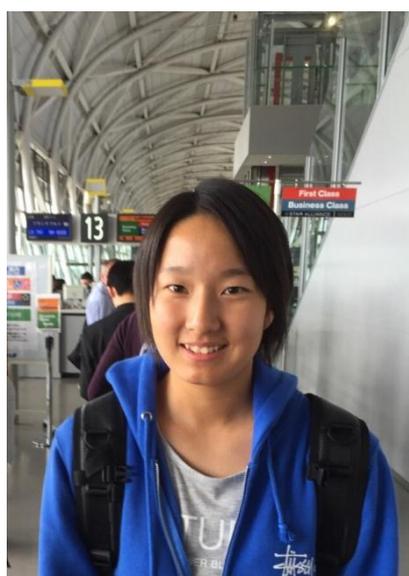
フランクフルトでは3時間ほど待ち、ミュンヘンへ現地時間18時頃到着。

ドイツミュンヘン在住のアンドレア氏（ロンドンオリンピック時に日本ボート協会の依頼でお手伝いしていただいた方）が出迎えてくれました。

車に乗せてもらい宿舎まで。

ミュンヘン空港より車で約30分ほどで到着。ホテルで1泊。

とても良いホテルでした。



(出発前の大門選手)

5月4日：朝食をとり9時30分ボートコースへ到着。

レースまでは移動時間を省き練習環境を優先しボートコース目の前の宿舎（戸田の国立艇庫並み）に移動した。

すでにフランスナショナルチームやドイツの大学生のチームがトレーニング到着後、すぐにレンタルボートを確認。

フィリッピ F44 をレンタル予定であったが用意されていたのはフィリッピ F15（男子軽量艇）であった。シューズも 28cm 程度。

交渉の末 5月6日（水）に F44 を用意できるとのことでひとまず F15 にて準備をすすめることに。

選手にはこれも海外では良くあるためすべてを受け入れて最大限の努力を行うことを確認した。

トレーニングは高さが出ないため水上 4km と残りはエルゴにて調整をおこなった。



5月5日：時差にも少しずつ対応

AM：16km PM：16km

しかし、高さが完全ではないため不安の残る調整に・・・



ミュンヘンのオリンピック会場となった艇庫（トレーニングセンター）



(設備も充実)



(冷泉のため透き通るコース)



(艇庫の食堂)



(食事も提供)



(コースに艇ラックが！まだまだ閑散とするコース)



(連邦政府基地、若者、ミュンヘン支店と表記。この施設には日本の柔道、バレーボールも宿泊し拠点利用しているようです。日本でいうナショナルトレーニングセンターに値する施設の様です。)

5月6日 午前：朝から雨が降り気温は10℃

選手コンディションと艇の状況を総合的に判断し室内トレーニングへ



(エルゴで汗を流す大門選手)

(艇庫内にある体育館)

5月6日 午後：午後より待望のF44艇が到着。



リギングをしっかりと行い水上へ



(水上に向かう大門選手)

(5月6日 PMのトレーニング風景)



(トレーニング後の大門選手)